

「タイム・イズ・マネー」

娘の通う中学校で、外部講師を招いた「時間の使い方講座」が開かれた。入学したばかりの1年生を対象に、宿題をこなしつつ家族や友人との時間も楽しむ方法をみっちり教える。「帰宅後にすべきことを30分単位で書き出す」「優先順位をつける」など指示は具体的だ。

講師のブルー・ソルターさんによると、



オーストラリアでは時間管理教育が大人気。「広告も出さないのにこの10年間は毎日が予約でいっぱいだった」と話す。2

001年の開業以来、全国の中学校で計3000回、約50万人に伝授した。

大人も時間の使い方には敏感だ。「タイム・イズ・マネー」を地で行き、定時にさっと仕事を終えて帰宅する。もっとも、資源ブームが去っても豪州の給与水準は世界でトップクラス。企業は給料が高くてとても残業させられないのが現実だ。

|| シドニーから (T)